

令和 元年 6 月 17 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04462

研究課題名（和文）大学間共同の高大連携と評価手法の開発研究による高大接続入試への提案

研究課題名（英文）Proposal for entrance examination selection methods through transition from senior high school education system to the university education system

研究代表者

大久保 貢（okubo, mitsugu）

福井大学・アドミッションセンター・教授

研究者番号：80260561

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：これまでの高大連携活動を実践した経験を基に、高校教育と大学教育のスムーズな接続を図ることを目的に課題研究を実践して次の点を明らかにした。課題研究で培った多様な学習成果をルーブリックにより評価することが出来た。そして、その評価結果を大学入試へ活用できることが分かった。以上の結果から高大連携による課題研究の実践により高校教育の質的転換と多面的・総合的に評価する大学入試選抜の改革することが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高大接続改革の折、大学入学者選抜では多面的・総合的に評価する入試への改革が求められている。本研究では福井と静岡のフィールドで高大連携による課題研究の実践によりルーブリックを開発した。このルーブリックを活用して受験生の高校時代に活動した内容のプレゼンテーションに対して多面的・総合的に評価する高大接続入試を提案した。その結果、福井大学工学部の一学科で令和2年度高大接続入試の導入が決定した。以上のように探究的な学びへの転換を図っている高校教育を支援しながら大学入学者選抜の改革を実施した研究である。

研究成果の概要（英文）：Based on previous works implementing activities to link senior high schools and universities, this study clarified the following points through implementation of a project study that aimed to ensure smooth transition from the senior high school education system to the university education system for graduating students. Diverse learning outcomes that developed through the project study could be evaluated using a rubric. Also, it was evident that these evaluation results could be used for university entrance examinations. From the study results, it can be understood that implementing a project study conducted through a senior high school ; university collaboration could bring about qualitative changes in senior high school education, and could reform university entrance examination selection methods through multifaceted comprehensive evaluation.

研究分野：高大接続入試

キーワード：高大接続入試 課題研究 多面的評価 ルーブリック 文科省委託事業 高大連携活動 探究的な学び
主体性

1. 研究開始当初の背景

これまで課題探究プロジェクトの実践は平成 15 年度から平成 26 年度まで 12 年連続で SPP 事業(科学技術振興機構の高大連携による課題探究プロジェクト)や科研費の採択(すべて筆者が研究代表)により実践してきた。高校時代に SPP 事業を実践した学生の大学入学後の学業成績を追跡調査した結果、高校時代に SPP 事業を実践した学生の大学入学後の学業成績は、高校時代に高大連携活動に参加しなかった学生の成績より優位であることが分かった。即ち、これまでの研究により高校時代の SPP 事業の実践によって高校教育と大学教育のスムーズな接続が図られていることが明らかになっている。

しかしながら、現在の高校教育は 12 年前の高校教育と比較するとほとんど変化していない。この要因としては、課題探究プロジェクトの評価結果が大学入試に活用されていないことが考えられる。

このような状況の中、課題探究プロジェクトの実践で培った多様な学習成果を評価する手法を開発して、その評価結果を大学入試の選抜材料の一部に活用することは高校教育と大学教育のスムーズな接続の観点から極めて重要である。これにより現行の知識中心(暗記型)の大学入試が改善され、それによって高校教育の質的転換に繋がることが考えられる。なぜならば、現行の高校教育は難関大学に合格させるための知識注入型教育であり、生徒が主体的に考える教育や自ら行動する指導など大学入学後に伸びるような教育は二の次になっている。

福井大学(基幹大学)では、これまで文部科学省 委託事業「高校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究事業」の採択(H25~H27)により高大連携による課題研究の実践で培った多様な学習成果の評価手法を検討し、その評価結果を大学入試への活用の研究をすでに実践している。下記に研究代表者が開発したルーブリックの一部を示す。このルーブリックにより評価場面を設定し、評価者(高大の教員と TA)が多様な学習成果の評価を行った。

2. 研究の目的

新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革が求められている。即ち、課題探究的学習への質的転換が求められる高校教育とアクティブ・ラーニングへの質的転換が求められている大学教育、さらに両者をつなぐ高大接続入試、その中で大学における個別選抜での入試の仕組みの改善がいずれも喫緊の課題である。

このような状況の中、福井と静岡のフィールドで福井大学(基幹大学)、静岡大学の 2 大学が共同して、新たな高大連携のあり方とそこでの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発(評価基準の確立と共通化)を行うと共に、それを通して高大接続入試、特に各大学における個別選抜への提案を行う。また、この成果を全国の大学に発信したい。

3. 研究の方法

【平成 28 年度】

本研究を 2 大学共同で取り組むため、2 つの組織を設置する。

- (1) 各大学に「高大連携・課題探究プロジェクト委員会」(福井大学:担当 研究代表者 大久保、静岡大学:担当 研究分担者 雨森)を設置し、大学、県教委、高校の担当者と連携し、課題探究プロジェクトを実践する。
- (2) 上記の委員会と連携し、「評価開発研究委員会」(担当:研究代表者 大久保)を設立し、多様な学習成果を評価するルーブリックおよびポートフォリオのブラッシュ・アップを図る。
- (3) 英国の大学や英国入試機構への調査(GCSE:英国の中等教育修了資格試験)のため、英国の大学・高校のベンチマーキングを行う。(担当:研究代表者 大久保)

【平成 29 年度】

- (1) 2 大学がそれぞれ取り組んできた高大連携の取組を継続実施するとともに、2 県合同の交流会を持つ。(高大連携・課題探究プロジェクト委員会)(担当:研究代表者 大久保)
- (2) 高大連携授業・課題探究プロジェクト活動を実践し、多面的・総合的評価に対応したデータを蓄積する。((国立 2 大学共同)評価開発研究委員会)(担当:研究代表者 大久保)
- (3) 先進国視察および海外大学・高等学校のベンチマーキングを行う。(米国)(担当:研究代表者 大久保)

【平成 30 年度】

- (1) 2 大学がそれぞれ取り組んできた高大連携の取組を継続実施するとともに、2 県合同の交流会を持つ。(高大連携・課題探究プロジェクト委員会)(担当:研究代表者 大久保)
- (2) 高大連携授業・課題探究プロジェクト活動を実践し、多面的・総合的評価に対応したデータを蓄積する。((国立 2 大学共同)評価開発研究委員会)(担当:研究代表者 大久保)
- (3) 多様な学習成果の評価結果を活用した入学者選抜を検討する。(地方国立大学共同 次世代型入試開発会議)(担当:研究代表者 大久保)
- (4) これらの研究成果を基に、個別選抜への提案を行う。

4. 研究成果

福井と静岡のフィールドで福井大学と静岡大学の2大学が共同して新たな高大連携のあり方とそこでの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行い、それを通して高大接続入試への提案を目的に実践した結果、次の3点を明らかにした。

1 点目は、本研究で開発したルーブリックにより受験生のプレゼンテーションを多面的・総合的に評価する高大接続入試を福井大学工学部建築・都市環境工学科の令和2年度入試に提案し導入が認められた。また開発したルーブリックにより受験生の作品等の成果を多面的・総合的に評価する高大接続入試を福井大学教育学部芸術・スポーツ教育美術科の令和3年度入試に提案し導入が認められた。このようにルーブリックの開発により工学部及び教育学部では初めて高大接続入試の導入が決定した。2 点目は、開発したルーブリックは福井大学国際地域学部で実践している課題探究プロジェクト (Project-Based Learning) での多様な学習成果に対する評価にも有効であることが分かった。本研究で開発したルーブリックは、入試における受験生の多様な能力を多面的に評価するだけでなく、大学教育で実践しているプロジェクトの成果を評価する手法としても有効であることが分かった。3 点目は、多様な学習成果をルーブリックによる多面的・総合的に評価するには評価疲れ及び評価ズレ (評価の信頼性) をいかに低減するかが重要であることが分かった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

雨森聡、宇佐美壽英、藤井朋之、パフォーマンス課題を用いた主体性等を評価するデザイナー静岡県における工学系の高大接続事例をもとに、大学入試研究ジャーナル、査読有、29、2019、188 - 193

大久保貢、森幹男、中切正人、「探究力」に対するルーブリック評価の開発、大学入試研究ジャーナル、査読有、28、2018、53 - 59

〔学会発表〕(計 3 件)

大久保貢、高大接続入試の設計と追跡調査～国際地域学部の事例～ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 14 回) 2019 年 05 月 選考無し 大学入試センター

雨森聡、宇佐美壽英、藤井朋之、高大接続に必要なこととそのデザイン～静岡県における工学系の高大接続事例をもとに～、全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 13 回) 2018 年 05 月 選考無し 大学入試センター

大久保貢、多様な学習成果に対する評価手法の信頼性・妥当性の検証～入試成績、入学後の学業成績の追跡調査～全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 12 回) 2017 年 05 月 選考無し 大学入試センター

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ

<https://www.adc.u-fukui.ac.jp>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：古閑 義之
ローマ字氏名：KOGA、yoshiyuki
所属研究機関名：福井大学
部局名：学術研究院工学系部門
職名：准教授
研究者番号（8桁）：20338429

研究分担者氏名：田上 秀一
ローマ字氏名：TANOUE、shuichi
所属研究機関名：福井大学
部局名：学術研究院工学系部門
職名：教授
研究者番号（8桁）：40274500

研究分担者氏名：森 幹男
ローマ字氏名：MORI、mikio
所属研究機関名：福井大学
部局名：学術研究院工学系部門
職名：准教授
研究者番号（8桁）：70313731

研究分担者氏名：雨森 聡
ローマ字氏名：AMENOMORI、satoshi
所属研究機関名：静岡大学
部局名：全学入試センター
職名：准教授
研究者番号（8桁）：80549692

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。